

# 2021年大会における感染予防ガイドライン

(一財)石川陸上競技協会

専務理事 藤垣晴夫

昨年からの日本スポーツ協会・日本陸上競技連盟の新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防ガイドラインに準じて、石川陸上競技協会としてのガイドラインを設定し、各大会における主催者はこれらを参考に大会運営の開催に務めて下さい。 <各競技場に応じた対策を作成し、審判・選手に把握させ、感染防止用品の準備をする>

## ①【大会開催にむけて留意してほしいこと】

☆現状によりしばらくは、無観客での開催かどうかの判断を慎重に検討して方針を決定して下さい。  
<事前に関係者へ連絡できる対策を徹底すること>

☆大会時には医師・看護師を必ず配置し、後方支援病院を計画し、対応の協力をお願いすること。  
発熱者が出た場合は、隔離する部屋（テント・場所）に待機させる。  
→行動範囲や濃厚接触者など、必要事項を記録しておく。

☆選手および審判・顧問など大会に関わる者全員に「健康チェック表」を記入の上、提出させること。提出がない者は参加させない。（体調管理チェックシート【2週間前～大会当日提出用】）  
→大会後は主催者側で1ヶ月は保管。問題がある場合は顧問を通して県陸協事務局へ連絡すること

☆大会開催2週間前に「競技会開催の基本情報と前提条件の確認用紙」（日本陸連資料参照）を県陸協事務局へ必ず提出下さい。

## ◎その他必要事項

- ・状況により、審判打合せは審判マニュアルを作成し主任会議のみで実施。その後に各審判部署で打合せる。
- ・夏場は熱中症対策も十分に行うこと
- ・手洗い石鹸・消毒液・ペーパータオル等を必要箇所に必ず設置し、注意喚起用紙を掲示して対応すること。
- ・会場へ来る際、競技中以外はマスク着用をお願いする
- ・会場内は禁煙とする。
- ・無観客時はスタンド等には、大会関係者のみとし、集団応援や大声での応援を禁止し、密集にならないよう注意喚起させる。（コーチ席も同様にマスクの着用と密集を防止）
- ・スタンド出入口は1カ所に絞り、大会関係者以外が入らないよう看板等も設置（競技場によって、自由に入れる場合は、張り紙などを多めに掲示する。）
- ・スタンドに一般観客を入れる場合は、氏名・住所・連絡先を記入させ、検温も実施。（3密にならないように呼びかける <そのための担当者も配置>）
- ・更衣室やシャワー室は基本使用させないが、使用せざるを得ない場合は、換気や一時使用人数を制限して短時間で会話を控えさせて利用させる。
- ・競技・大会終了後は、必要な場所や器具類は必ず消毒を実施する。
- ・各学校や選手は待機場所に消毒液を各自で準備させてほしい。
- ・ゴミ箱の設置はしない。基本、ゴミは各自で持ち帰りをお願いする。
- ・投擲種目では、競技終了後に器具を消毒する。すべり止め粉などは担当者より渡す方が好ましい。

## ②【大会前の準備】

- ・大会開催1週間前に「競技会開催の基本情報と前提条件の確認用紙」（日本陸連資料参照）を県陸協事務局へ提出下さい。
- ・審判・競技者への連絡事項は事前に作成し、配布などを行って周知させる。コロナ感染関係の必要な事項は大会要項などにも掲載する
- ・健康チェック表を必ず記入させるよう案内し、大会当日に提出させる。提出がない場合は参加させない（審判・選手・顧問すべて）
- ・1週間前から体温や体調をチェックする用紙（日本陸連資料参照）は常に選手へ周知させ、提出を求める。
- ・ビニールカーテンや消毒液、手洗い石鹸、フェースマスク、ペーパータオルなど準備
- ・関係医師・看護師を依頼し、連絡病院をお願いしておく。

## ③【大会後の対応】

- ・健康チェック用紙は1ヶ月保管するとともに県陸協事務局へ提出する。
- ・使用した器具や本部室机・いす、各種機材、ドアノブ等はすべて消毒を行う。

## ④【部署ごとに準備・設置してほしいもの<基本>】

- 受付・・・体温計、健康チェック表と回収箱、報道への注意事項
- 医務室・・・発熱者隔離場所や囲い（場所がない場合はテントを準備）

フェース・シールド	出発係、招集係、選手呼び出し審判員、マーシャル、看護師、医師、フィニッシュ誘導担当、など *必要に応じて防護服・ゴーグルなども準備。
ビニール・カーテン	審判・競技者受付、本部記録、情報など
消毒液（消毒シート）	審判競技者受付、各審判待機場所、補助員待機場所、招集所、競技場出入口、選手退場口、スタンド出入口（競技場による）、ウォーミングアップ場、出発係、フィールド種目場所、用器具庫・フィニッシュ付近、決勝計時、写真判定室、アナウンス、本部記録、情報、電光掲示、給水係など
手洗石鹸水	各トイレ、各審判待機場所、補助員待機場所、ウォーミングアップ場、用器具庫、各手洗い場所、フィニッシュ付近、写真判定室 など *手洗い場所がある場合
ビニール手袋	出発、投擲、跳躍場所で器具などに触る担当者、状況に応じてマーシャルや競技者、誘導係、給水係、救護など必要な部署

## ⑤【大会参加にむけて厳守すべきこと<審判・競技者すべてを含む>】

<受付>・・・マスク着用・フェースシールドやビニールカーテンなどを設置

- 朝の検温を必ず行い、その結果は・・・必ず大会総務へ報告願います。

<37.3℃以上は参加許可しない>

- 各学校の競技者・補助員は顧問へ必ず報告をする→大会総務員（担当者）へ報告
- 審判・一般競技者は受付を必ず行い、その際に検温と健康チェック表を記入させ提出させる。検温結果を記録しておく。提出無き者は参加できない  
<県陸協事務局へ提出、1ヶ月は保管しておく。>
- 大会当日健康チェック表の提出と用紙の準備（各学校はまとめて提出）

<連絡事項>

- 審判業務終了後は必ず手洗い・うがい・手の消毒を行う。（マスク着用も）
- レース・ウォームアップ時以外はマスクの着用をすると同時に手洗い・うがい・消毒・洗顔などを徹底することを促す。
- ハンカチなどは各自で準備させ、ゴミはすべて個人で持ち帰らせる。

## ⑥【審判・補助員・選手の待機場所】

- ・3密にならないよう場所等の工夫をする
- ・通気性を確保し、換気の悪い室内等は利用しない。夏の暑い時期にクーラー使用時は定期的に換気を実施か、数カ所窓などを開けておく。
- ・1～2m間隔を保つ配置とマスクやフェイスシールド、ゴーグルなど着用
- ・テントなどを利用すると同時に密集しない工夫をしてほしい

### <西部緑地の場合>

- ・審判は、本部室・会議室・トレーニング室を利用する。  
本部記録・情報室はビニールカーテンを設置。写真判定室は最小限の人数を部屋に入れ（換気に注意）、スタンド付近も活用する
- ・補助員は最低限の人数にしぼり協力をお願いする。参加できる学校を事前に調査  
待機場所は雨天走路で部署ごとに配置させる。
- ・選手待機場所は：テントなどを利用すると同時に密集しない工夫をしてほしい  
サブの雨天走路・スタンド裏通路など分散方式をとる。密集を避ける

## ⑦【ウォーミングアップについて】

- ・選手同士の間隔を十分に取り、3密を避ける。
- ・雨天走路を利用する際は、換気を必ず取るようにする。（晴天時は使用させない。  
場合によっては、雨天時でも選手待機場所として活用し、雨天走路は使わさない）
- ・投擲種目は練習日程時間を計画して投擲場で行わせる。（競技時間の工夫）

## ⑧【運営面について留意してほしいこと<競技場に応じた対策>】

○テントを多めに設置して、密集を避ける。

○競技者と審判との動線を分ける（スタンド下通路は競技者は使用させない）

### <招集について>

- ・最終点呼は現地実施方式をとり、一次招集では欠場者は必ず招集開始時刻までに×をつける  
→掲示板を利用し多めに設置。雨以外は外に設置。（室内は避ける）
- ・選手の移動は各自で最終点呼時間までに現地集合とする。
- ・レーンナンバーを配布する際は手渡しを避け、使用後は消毒を行い、同じ物をできるかぎり使用しないようにする。大会後は洗濯して日光に十分あてて乾かす。使用済みはナイロン袋へ入れさせる。
- ・最終点呼では密集にならないよう組ごとに工夫して行うこと。
- ・競技者の待機場所は密集するので、場所を工夫するか2～3組ごとに集合させるようにする
- ・タイムテーブルを細かく分けて日程を組み、トラック種目では、集合場所が密集しないよう工夫する。
- ・必要に応じて、ゲート外やダッグアウトも活用する。

### <競技について>

#### ○トラック種目

- ・1500m以上の中長距離・競歩種目は1組の人数が12～15名以内で編成実施。
- ・フィニッシュ後、密集しないように誘導し、速やかに退場するよう指示。入退場口はゲートの外を活用。
- ・レース後は必ず、うがい・手洗い、消毒を指示する。
- ・スターティングブロック、バトン、手旗、時計、ピストルなど機材は大会終了時に消毒する。

#### ○フィールド種目

- ・3密にならないよう指示し、選手同士の会話は避けさせる。
- ・審判・補助員の配置が密集しないよう工夫する。
- ・選手の待機場所は、間隔を開けるよう配置する。入退場はゲートの外を利用する。
- ・ワンピットに30人以上にならないようタイムテーブルを工夫・競技運営を行う。  
走幅跳は場合により、正面とバックに分けて実施し、トップ8も同場所で実施もあり得る。
- ・（西部緑地では）走高跳と砲丸投は同時刻にならないよう工夫する。

## ⑨大会運営にむけて審判部署ごとに留意すべきこと（必ず確認して下さい）

### 【総務・総務員・審判長】

- 審判・補助員・選手待機場所について3密にならないよう注意を払う。  
サブの雨天走路・スタンド裏通路など分散方式をとる。密集を避けて配置
- 通気性を確保し換気の悪い室内等を利用しない。夏の暑い時期にクーラー使用時は定期的に換気を実施か、数カ所窓などを開ける。
- 審判や競技者、補助員など3密を避ける配置とマスクや部署によりフェイスシールドなど着用するよう指示
- テントなどで選手を待機させる場合、密集しないよう指示する。
- 審判控え室は、本部室・会議室・トレーニング室の利用を指示する。
- 補助員は最低限の人数にしぼり審判を主に対応協力をお願いする。待機場所は雨天走路で部署ごとに配置。
- 各用具類や鉛筆やトランシーバーなどは終了後、消毒する。
- 審判控え室の椅子や机は各自で消毒の協力、ドアノブなども消毒する。
- ゴミ箱は使用させず、ゴミ袋に集める。湯茶などは紙コップを使用。

### 【役員・選手・報道受付】

- ・マスク着用・フェイスシールドやビニールカーテンなどを設置
  - ・朝の検温を必ず行い、その結果は・・・必ず大会総務へ報告願います。  
＜37.5℃以上は参加許可しない・・・直ちに家に帰らせる・・・選手は顧問へ連絡＞  
検温カメラ使用の際は、パソコン担当者を配置する。
  - ・各学校の競技者・補助員は顧問から健康チェック表提出を受け →総務へ提出
  - ・審判・報道・一般競技者は受付を必ず行い、その際に検温と健康チェック表を記入させ 提出させる。検温結果を記録しておく。提出無き者は参加できない
  - ＜大会総務員（総務部長）へ提出、1ヶ月は保管します。＞ ビブス配布
  - ・大会当日健康チェック表の予備用紙準備（報道関係や関係役員の分を記入させる）  
各部署ごと（審判役員・各学校選手・報道・学生役員などにまとめておく）
- ＜連絡事項＞
- ・審判業務終了後は必ず手洗い・うがい・手の消毒を行う。（マスク着用も）
  - ・マスクの着用していない者には着用することを促す。
  - ・ハンカチなどは各自で準備させ、ゴミはすべて個人で持ち帰らせる。
  - ・弁当配布は各自で取らせる。
  - ・鉛筆なども消毒

### 【会場係】・・・フェースシールド、マスク着用、消毒液準備

- ・スタンド入場の受付・・・保護者の健康チェック表受け取り、リボン配布
- ・スタンドへの出入りの際、リボンのチェック
- ・スタンドでの密集、密接、集団応援、マスク着用、大声での応援など無いよう指導

### 【本部記録・情報】

- ・ビニールカーテンを設置。
- ・記録掲示板は男女別・トラック、フィールド別に準備し、密にならないように配置する。
- ・必要に応じて、手洗い・手の消毒を徹底する。
- ・使用した鉛筆なども消毒

### 【写真判定】

- ・必要に応じてフェースシールドも着用する。マスクは必ず着用
- ・最小限の人数を部屋に入れ（換気に注意）、蜜を減らす。
- ・写真判定室下のスタンド付近も活用する。手洗い・手の消毒をこまめに実施
- ・機材使用者が変わる際は、できる限り機材などの消毒を行うが、アルコールに不都合な機材には消毒シートで対応する。
- ・部屋が狭く、ソーシャルデスタンスをとりにくいので換気をしっかり行うようにする

## 【出発】

- ・マスクまたはフェースシールド着用、必要に応じてビニール手袋着用
- ・最終点呼時間に1組ごとに集合させて、最終点呼をとる。
- ・スタートに入る際は、1人ずつ手指の消毒をさせてから入らせる。  
＜リレーの場合は1走のみ手の消毒をさせる＞
- ・選手の待機場所は、テント内、もしくはダッグアウトを活用し、蜜を防ぐ対応で指示する。選手同士の会話は避けさせる
- ・スターブロ・レーンボックスは全競技終了後、バトンはレース終了後できる限り消毒をする。
- ・補助員には、マスクとビニール手袋を着用させる。
- ・タイムテーブルに余裕があるので、時間配分を考えて準備させる。

## 【スターター・リコールスターター】

- ・フェースシールドとビニール手袋を着用・補助員はマスクとビニール手袋を着用。
- ・ピストルは、レース後消毒を行う。
- ・ビデオカメラ使用の際は、3脚を利用し、使用者にはビニール手袋を着用
- ・スピーカーは各種目で使用后必ず、電源を切る。
- ・マイクは使用后必ず消毒シートで消毒して交代する。

## 【周回・決勝・計時】

- ・器具使用後は、消毒をお願いする。ストップウォッチは消毒シートで除菌して使用。
- ・できる限り間隔を空けて審判配置を実施。
- ・周回は横並びで配置して審判業務で対応する。
- ・周回板担当は、フィニッシュ手前で対応し、トラックより1m離れて設置。
- ・800m以上で対応し周回と決勝は兼任、計時は2名以内まで

## 【監察員】

- ・椅子や旗、器具などは、使用后消毒し、1本ごとに広げて置く。今までの場所から器具庫のあいたスペースを活用して乾燥させる。
- ・通常の配置場所から少しトラックから1m離れて待機する。
- ・トランシーバーは、できれば同じ人が持つようにし、交代する場合は、消毒シートで拭いて交代する。

## 【マーシャル】

- ・ゴール後の選手を誘導する際は、フェースシールドとビニール手袋を着用する。
- ・選手が待機中や、スタンドなどで密になっている際は注意する。
- ・大声での応援、集団応援などは注意する。
- ・ゴール後、退場する際は手洗いや手の消毒をするよう呼びかける。

## 【ウォーミングアップ係】

- ・選手同士の間隔を十分に取り、3蜜を避けるよう呼びかける。
- ・雨天走路を利用する際は、換気を必ず取るようにする。(晴天時は使用させない)
- ・投擲種目は練習日程時間を計画して投擲場で行わせる。(競技時間の工夫)

## 【アナウンサー】

- ・必要に応じてフェースシールド使用・レース中でも音楽OK(4階で行う)
- ・マイクや機材は、交代時や競技終了後は消毒をする。
- ・状況に応じて定期的に、3蜜を避けることについて呼びかけのアナウンスを行う。
- ・大型スクリーンと連携、ライブ配信用に選手紹介・レースの状況をこまめに通告
- ・ライブ配信用に選手紹介は予選から行い、記録は8位まで通告する。

## 【競技者係】

- ・マスク・フェースシールド着用、鉛筆などは常に消毒する
- ・最終点呼は現地実施方式をとり、一次招集では欠場者は必ず招集開始時刻までに×をつけるよう指示＝掲示板を利用し男女別・トラック・フィールド別に設置。
- ・選手の移動は各自で最終点呼時間までに現地集合を指示と掲示する。
- ・レーンナンバーを配布する際は手渡しを避け、レース後に競技者で返すよう指示する使用後は番号ごとにナイロン袋に入れるようにし、同じモノを使用しないように分けて置いておく。＜1000m以上のみ＞
- ・トラック種目では現地で最終点呼を行う。＜出発係と連携＞
- ・競技者の待機場所は密集するので、場所を工夫するか2～3組ごとに集合させるようにする
- ・必要に応じて、ゲート外やダッグアウトも活用して競技者を待機させる。
- ・欠場者を情報へ連絡する。リレーのオーダー用紙提出を促す。

### 【フィールド審判】・・・跳躍では、雨天走路での練習はさせない。

- ・3密にならないよう指示し、選手同士の会話は避けさせる。
- ・審判・補助員の配置が密集しないよう工夫する。補助員は最小限に配置する。
- ・選手の待機場所は、間隔を開けるよう配置する。入退場はゲートの外を利用
- ・競技終了後に器具などを消毒する。すべり止め粉などは担当者より渡す方が好ましい。
- ・競技終了後は、ベンチなどをアルコールシートかアルコール消毒で消毒する。
- ・投擲種目では、1投ごとに槍や円盤などはアルコール消毒は必要ない。
- ・競技者呼び出し係は、必要に応じてフェイスシールドを着用する。

### 【用器具】

- ・用器具を準備、後始末する際は、ビニール手袋などして対応する。
- ・競技終了後、各部署の用具を運んできた際はできるかぎりアルコール消毒できる器具は消毒を指示する。アルコール消毒できない物は、消毒シートなどを活用する。  
<マットやスタンド、ハードル、ゴールタイマー、各種タイマーなどは必要ない>
- ・紅白の旗や観察用の旗などは、消毒後、棚などにかけて干すようにする。
- ・消毒用タオルの準備。(総務より事前に受け取る)
- ・テントやベンチの配置、コーンの配置を行う
- ・100mと100mH、110mHでは選手の衣類をゴールテントへ輸送
- ・給水係兼務：マスク、ナイロン手袋着用、紙コップを使用後はすべてゴミとする。

### 【大型スクリーン係】

- ・競技終了後や審判が交代する際、各種ボタンやレバーなど機材周辺はアルコール消毒をする
- ・密閉がないよう、定期的に換気に努める。
- ・ライブ配信（ビデオカメラ担当）の準備と対応・・・業社との打ち合わせ
- ・定期的に計画して広告を流す。
- ・ライブ配信用のビデオの操作を行う。
- ・アナウンサーと連携、スタートリストや記録発表時もライブ配信する。

### 【風力係】

- ・ボタンなどで操作する機材は、競技終了後は消毒をする。

### 【補助員係】・・・控え室は：雨天走路で部署別に配置。密集は避ける。

作業終了ごとに手洗いやうがい、手の消毒をさせる  
帽子は着けさせない。雨合羽は各自で持ち帰る  
IDカードを付けさせる。

### 【救護・救護係】

- ：マスク・フェイスシールド着用
- ・フィニッシュ後倒れる選手への対応は、言葉でできるかぎり指示。
- ・状況に応じて、身体をさわる場合は、ビニール手袋を着用し、常に手の消毒に心がける。
- ・氷入れのナイロン袋を渡す場合は、ナイロン手袋を使用
- ・給水は紙コップで対応